

## 【第139回対策本部会議】 8月3日

健康福祉部長／本日の感染者は1,781人。

2週間前から横ばい傾向だったが、昨日、過去最多の2,055人に。福岡県の感染者数も多く、県境の鳥栖、唐津地区での増加が、感染者増加の1つの要素だと推察している。

年代別の構成比は、20代以下が4割、40代以下が7割、高齢者は1割程度。若年層の感染者が減少したのは、夏休みに入ったことも要因だと考えている。

入院者は322人、病床使用率は55.7%、うち中等症者は107人、中等症者用の病床使用率が18.5%、重症者はいない。ホテル療養者214人、ホテル使用率は34.8%、自宅療養者が1万1,517人。

感染者数の増加とともに高齢者の感染も増えてきた。このまま増加が続けば、病床使用率にも影響が出ると懸念される。

そこで、病床をひっ迫させない、救急医療と通常医療を守るプロジェクトMの対策に取り組む。

まず、高齢者等宿泊療養施設として白石ステーションを8月5日から稼働する。これまで宿泊療養施設の形で確保していたが、今後は高齢者も療養してもらう。介護や介助が必要な軽症、無症状で入院している高齢者を受け入れ、病院のベッドの回転率を上げる。

また、自宅療養者向けに外来・往診診療機関の拡充を図る。自宅療養者で治療が必要な人、心配な人が、外来や往診を受けられる医療機関を増やす。1、2月頃は10医療機関だったが、現在、70以上に増えた。今後も拡充する。

引き続き、高齢者に感染が拡がらないよう取り組む。

坂本副知事／若い人の入院率に変わりはないか。

保健福祉部長／現在、高齢者が約17%、20代以下は0.4%。

坂本副知事／若い人は、自宅療養がほとんどだと理解した。

男女参画・こども局長／保育所は、学校の夏休み期間中も子どもを預かっているの  
で、増え続けている。一部の園では、クラス閉鎖している。

保育所への聞き取りでは、基本的な感染防止対策に取り組んでいる。以前と違うのは、先に家族が感染し、園児へ感染することが多くなった。

また、子どもは、口や鼻に入れた指でいろんな場所を触る。それで感染が広がることもあり、完璧に防ぐことは難しいとの声もある。

保育士が感染し、主任保育士や園長先生が代替するなど工夫しているとのこと。現場の皆様には感謝する。

教育長／小学生は夏休みに入り、接触回数が減り下降傾向。中学生と高校生は、横ばい。部活動や課外活動での接触機会があるためだと考えられる。

学校には夏休み前、夏休み期間中の部活動やプールの利用、課外授業での感染対策への注意喚起をした。また、熱中症対策を優先し、運動部活動や登下校中のマスクは外すよう指導している。

引き続き、夏休み期間も基本的な感染対策をお願いする。

健康福祉部長／現在、高齢者施設での感染が増えている。施設内療養は、6月末では1桁だったが、7月中旬には20~30施設、8月に入り60施設以上に増加。

施設内療養者がいる施設には、感染者を確認した時点で、保健所から出向く、または電話で指導している。

施設の形態によっても感染の広がり方が異なる。比較的元気な高齢者向けの施設では、感染が広がらずに済んでいる。しかし、認知症の高齢者が多い施設では、徘徊もありクラスターにつながる。

感染経路は不明な部分も多いが、家族から感染した職員、ほかの施設にショートステイした高齢者から感染する場合もあるようだ。また、職員の感染も増え、シフトの変更や他施設との相互協力で運営を続けている。

坂本副知事／高齢者施設では、デイサービスを続けているのか。

健康福祉部長／感染者が多く出たときは一時やめたようだが、原則続けている。

坂本副知事／デイサービスは重要。県として、情報提供を行い、支えてほしい。

知事／コロナ対応も2年5か月になる。その時々でウイルスが変化するため、即応態勢の構築が大事。

感染者数が倍増し、医療従事者、エッセンシャルワーカーの皆さん、同僚の感染等で人員が減った現場を守る方々、多数の陽性者に対応している保健所の方々、1万人を超える自宅待機の方々、それぞれの立場で大変な思いをされている。医療従事者をはじめ、現場の皆さんに心から感謝申し上げる。

昨年のデルタ株と違い、感染者数が非常に多い。若年者は多数感染しているが、一般的に3～4日で発熱も治まり、普通に暮らせる。

今回のコロナ対応の難しさは、感染者数は多いが、社会経済体制を両立させる上で、感染の影響がほとんどない人と、厳しく辛い状況の人がいること。

前回の全国知事会で、数は数えなくていいのでは、との意見があった。全体数を集計する作業自体に手間がかかる。マンパワーを本質的なところに絞りたいというのが、知事たちの総意。

本県は、今回の対応法への課題は2つだと考えた。1つめは、高齢者と呼吸系に基礎疾患のある人への感染を防ぐこと。理由は、入院患者の4分の3以上と、呼吸器系のサポートを必要とする中等症2の84%以上は、70代以上の高齢者であるため。

2つめは、命に直結する救急対応や通常診療を維持すること。コロナ対応を優先し、病気や事故での救急対応ができないなら本末転倒。病床使用率を抑えることが、マンパワーを確保するためにも大事になる。

グラフは、病床使用率の推移。病床使用率の上昇が、現在の最大の警戒事項。今日は55.7%に達し、今後も増加する見込み。70%を超えると、救急対応と通常診療に支障が出始める。本日決定したプロジェクトMの対策で、70%未満に抑えたい。病床使用率の推移に着目し、対応していく。

県民の皆さんにお伝えしたいこと。佐賀県のような地方部は、お盆に全国から帰省で人が集まる。帰省や若い人が同窓会をすることに制限は設けない。ただ、高齢者や基礎疾患のある人を含む親戚の集まりでの会食は、できるだけ控えてほしい。やむを得ない場合は、マスクの着用をお願いする。

お盆の時期、みんなが気をつけるだけで未来が変わる。医療環境が守れるかどうかのポイントとも言える。ご協力をお願いする。

なんとかこの時期を抜け、今度こそ自然な形で生活ができるよう、一丸となって取り組みたい。

引き続き、誹謗中傷などを行わないようお願いする。佐賀県は、まっすぐに対策に取り組んでいく。